

使う人が使いたいと
思うものを創りたい

YONE 株式会社

代表者／米田 豊彦
住 所／京都市中京区西/京西中合町 23
TEL／075-821-1185
URL／<http://yone-co.co.jp>
事業内容／消防用・防災用・一般産業用流体
搬送機器(製)(販)

米田社長(左)による説明で、
放水テストの様子を見学しました



見えないメッセージに
耳を傾けるテクノロジー

朝日レントゲン工業 株式会社

代表者／中村 通
住 所／京都市南区久世築山町376-3
TEL／075-921-4371
URL／<http://www.asahi-xray.co.jp>
事業内容／歯科用 X 線装置(製)(販)

X 線装置の仕組みを解説いただきました

YONE(株)は昭和16年に先代が銅合金鍛造工場として創業。米田社長は「京都には伝統産業から業種転換した企業が多く、当社もその一つ」と歴史を振り返ります。仏壇・仏具で育まれた青銅鑄造技術と錆に強い素材を活かし、消防機器を中心に製造してきました。転機となったのは昭和27年、国産初となるボールバルブを開発。流体制御を担う同社の基幹技術となり、消防車への搭載の他、新幹線のトイレや燃料パイプラインなどに用途が広がり、生活や生産現場のインフラを縁の下で支えています。「現場で何が必要かを常に考えている」と米田社長。土砂災害をいち早く感知するセンサーや狭い瓦礫の中の様子を映すハンディカメラ等、複雑化する災害に対応し、新たな市場を拓きます。話題のドローン技術を活かした商品開発にも意欲的で、その眼は常に時代の先を見据えています。

朝日レントゲン工業(株)は、昭和31年に尼崎市で、歯科用 X 線撮影装置の専門メーカーとして創業。昭和44年には日本初となる歯科用パノラマ X 線撮影装置を開発。これは患者に代わり装置を回転させるという、従来と真逆の発想で生まれたもので、現在の歯科医療現場では標準となっています。レントゲン撮影は、フィルム・デジタル・CTと時代とともに進化。デジタル技術や精密部品の進歩により、ハードで他社との差別化が難しくなっていく中、中村社長は「これからはソフトウェアの時代。画像の精密密度や緻密な分析に力を入れています」と語ります。独自技術によりCTデータを解析し、歯の断面を全方向から診断することが可能となり、歯科医療の発展に役立っています。「産学連携にも積極的に取り組み、大学院へ社員派遣するなど、先進的に技術を取り入れています」と中村社長。IoT(モノのインターネット)を見据え、顧客情報と歯科データを駆使した新たなサービスで付加価値の創造を目指されています。

会頭の ひとこと

今回訪問した2社は、災害・医療の二つの分野で、あったらいいなという潜在的な需要を形にし、新たな価値創造に取り組まれている知恵ビジネス企業と言える。海外市場での評価も高く、京都のものづくり精神の発信にも期待したい。

おじやまします！

立石会頭の会員訪問レポート 39

立石義雄会頭も、会員の皆さまを訪問し、ご活躍の現場を拝見しています。その様子をご報告します。

「知恵産業のまち・京都」を掲げ9年目を迎える今年。顧客志向により潜在的なニーズを掴み、独自技術を活かして新たな価値を創造する知恵ビジネス企業の2社を訪問しました。